

池に落ちたランナーを
引き上げただけの小泉改革

福田政権の評価をするには、小泉内閣からの流れの中での評価が必須です。小泉さんは「自民党をぶつ壊す」とブチ上げて広くもてはやされました。が、私から言わせれば、本質的な改革はない。たとえば小泉内閣時代には、日経平均株価が1万7000円のときもあった。それが今は1万3000円を切っている。これはマーケットだけのせいじゃない。本当の改革というのは、企業の成長や成果という、目に見える形で現れないと意味がない。

小泉政権は5年半続いたわけですから、時間が短かったという言い訳も通用しません。企業の社長が5年半もやって業績が低迷し続けていたら、在任期間が短いといい訳できなでしよう。こうしたことからも、小泉内閣は「ターンアラウンド内閣」もしくは「リカバリーア内閣」にすぎなかつたといえるでしょう。この内閣の功績は不良債権問題の処理です。当時、「不良債権問題は時間が解決する」と楽観視する向き

Interview with Yasuyo Yamazaki

山崎養世 誰が政権を 取っても大差はない まずは高速道路を無料化せよ

福田首相の辞任を受けて早速、新たな総裁の選出に向けて動いた自民党。だが経済評論家の山崎養世氏は、「誰が総裁（首相）の座についても違わない」とした上で、「競争力の高い企業を地方で生むために、高速道路を無料化せよ」と訴える。小泉内閣からの構造改革路線に対する評価と、無料化が必要な理由について語ってもらった。

【やまとき・やすよ】1958年福岡県出身。82年東京大学卒業後、大和証券入社。米カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）にて経営学修士号（MBA）取得。94年ゴールドマン・サックス入社。ゴールドマン・サックス投信社長、ゴールドマン・サックス本社パートナーなどを歴任。2003年には、「高速道路無料化」が民主党のマニフェストに採用される。「次のグローバル・バブルが始まった!」（朝日新聞出版）など著書多数。

